



後
連歌新式摺抄 上

~ 5
1616
1



1616
1

連款新式抄上

連哥新式

後普光園抄改取作始拾ひし二條取
や良基と申す多かり右相國と申すや
又尋りしを白迄九十二年を建治
より已上二百八十九年を
や一系太閤たり并

新式今案末

宵柏の又加給人
おろよわいさ等

韻字事

向のとまり
の律なり

あつ紙を中へと記さ加て
是也と名をいなり

物名の字同
クも言時取たそれ由の事とある律之

之代准之
クも言時取たそれ由の事とある律之

愚別は形されしとす宗碩の終を以て
よまれたる時と推考しとす今ハ不入

与詞字



後抄
二つに
一社

上

一

どの句に風とも露とも付て又不可
 付之數句をくまのどりあとも一燈の
 道之代准 概令とたつてふむむむ風
 に付る事なり但南世付る句ありくわむむ風
 も露もさる付る句他くわむむむむむむむ
 別ののれまも 花よ風露乃新付る事を
 ばむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 強不及沙汰用い 若新可守新式を
 是宵今之句ありのゆゑに付てくまのどりあ
 とわむむむむむむむむむむむむむむむむむ

竹と云句よ世と付て又世乃字不付
を代竹と世とふむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 之如け世又を編廻や 竹のよとくまの
 よ世と付て又別の初よ竹よ世の字不付之は
 じうの付るやありあ世くむむむむむむむむ
 世又世とくまの竹と付る世とむむむむむむ
 世とくまの世不可付つれを世とむむむむむ
 事 ちかむむむむむむむむむむむむむむむむむ
 中後物 たりくまのむむむむむむむむむむむむ
 後同之 句よ世のむむむむむむむむむむむむ
 付て又世のむむむむむむむむむむむむむむ
 むむむむむむむむむむむむむむむむむむむ

をきしめと今いふ可付もんはたかり中末月を定養
 八自結つまらたうい中末月を付へ一法をうく
 あるゆとすことあり
 親言ちいしていれん **赤紙**は結わらる中末
 又不可結 実てより中末結 **書**とつふあり
繩と付て又**繩**かしく是と不付是結
是とす一可付し
 かりあかりらふひくたしふ可付之
是用也 物の繩をかしく一繩ありんかまはし
 うたかしく不付を繩よたうううううう
 ひくたしふ不付は是用也
 るるの付るうかりりするの繩

一塵一句物

百韻より
あま物なり

終ワシカニ一隅ウツキモノを物都テ為一塵一句物ト云

自餘准之

論語カクニ一隅而不以三隅
反則不復也

一隅とあり
百物とあり

何とていふは河下とつみか人等ハのせとくとりかかたり
 一塵一句あり物をもれ等もくを物いありうううう物あり
 等たり都とる教念のせんを物い物てのむかり
 自余准之は亦一塵一句の物ありなり
 つ結なり結意一徳又意わうては今一塵一句あり
 ううう一塵一句とて物の一あり物いあり
 ううう自出の自出の月入月入的の今も所の物なり
 後字のあま物なり

番を代 二用之 松風

松風 日赤 是もの文字入て

自給の中下わり 夕月夜

夕月夜 二梅雨夕月夜の時

拾芥川 夕月夜の時

夕月夜 二懐氏に

今日 二店

あつ 念ふ只ま引

念ふ只ま引 念ふ只ま一様よ一

比 日赤 宿

比 日赤 宿 念ふ只ま一様よ一

念ふ只ま一様よ一 念ふ只ま一様よ一

念ふ只ま一様よ一 念ふ只ま一様よ一

念ふ只ま一様よ一 念ふ只ま一様よ一

わらわん

こひよ一足一わらわんれやしてわらわん
ぬの半一りたるも二の内へ眺ナカム

幽視 源

多の和よ 一足一
わらわん一 一足一
すーげきしうたせ

一足三句物

春月

一足一 已上三句物
三ヶ月一 ありてよ 首月白わらわん

夏月 冬月
一足一 一足一
一足一 一足一

二足一 半一 月一
二足一 半一 月一

三足一 半一 月一
三足一 半一 月一

二つり三日月の四季のよわたり
あきの影のわらわん

一足一 一足一
一足一 一足一

一足一 一足一
一足一 一足一

一足一 一足一
一足一 一足一

一足一 一足一
一足一 一足一

一足一 一足一
一足一 一足一

一足一 一足一
一足一 一足一

公の巻
二足一 半一 月一
三足一 半一 月一

松原系
垂子よりす
知るべき盤
木の原系
いふこ
竹の系す
ノ類ハ
尾原系
カウシ
尾原系
トミツ
木ノ系
トミツ
各本ノ系
ナハ林

いふかり入るるむね葉もれそのみらたトク、のしらの
のしらわくするよのりらももみらのうらわり

落葉

品一松のねしん一落葉も葉口巾書之柳
らるれと一葉一葉うらりても一ちりね乃

ねしん竹のねしん葉難之柏のねしんねしん葉難之柳
わりなを柳しるもおしらのうらわり落葉も葉柳

しる松のねしんれ

萩

品一夏色のるる一焼系一
萩一懐氏とてててて

但秋の介代季

已上二也秋一書なをそのる一たも
一可純

うりせしるるとつえ萩のうれうれとすれいさななり
惣別名るのうらわらりそれと葉とて葉と

むすへん秋わり萩すくもはわらりお葉むすく
秋わりらるる萩萩の葉わり

うりりたり難波乃わらりつせのら萩萩とよりり大略
萩の秋のりら一とれとも萩の萩の介よまらり

とと者別よまらり萩と代季一又ら萩萩のりら
うのり合よらら一とすくくと大略ら萩萩

又萩のねしん又まらり萩と代季一のうらわら
つら萩二のねしん萩萩のり萩も葉とててて

薄

品一萩二すらの
品一萩二すらの

ら萩をねしんら萩二すらの
ら萩をねしんら萩二すらの

ら萩をねしんら萩二すらの
ら萩をねしんら萩二すらの

ら萩をねしんら萩二すらの
ら萩をねしんら萩二すらの

ら萩をねしんら萩二すらの
ら萩をねしんら萩二すらの

元ノ故ハ
三ノ内ハ
元アル本ヲ
ハカト云

部

一 國ノ故ナドニナラズ故ナドニ名ホニアルフス今ハユリス
其ニ名ホ一 此ニ名ホ一 月ノ名ニシテ月名ハ
の事ニシテ名ホ一

塩

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

海

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

洲

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

山

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

水

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

文

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

鳥ノ字
ニナリハ
歟ニナリ
使ハルニ
ナリ

ありて又鳥字なり一 筆も又と口筆もまたなり
筆もなりとありて又鳥字なり又鳥字なりとあり

物

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

鳥

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

鳥

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

鳥

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

鳥

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

鳥

一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一
一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一 一ノ名ホ一

日三天家
ナシにソラ
アトト亮
ニウ

可憐あややちのわらわらしてふのわら可憐
おちりぬる移よささじら行くふの二句や
天川言し世わすしの移移よ一ひくく天家しあ
二句をみゆを可憐わらりてよ天二句たり
あつとまや
かすの移移
戸字
梶開戸名戸名あ
るに移移と一
一を介能

閑戸名のうわしと移移くさうしうしあつとまや
居処よ二句をり移移字たり名のうも居あよ二句を
のうららの半たり名のわらわと
あつとま居あよたうくくさうわらり
移移世一うさう世一うさう世一うさう世一

一巻五句物

世
只一浮世世布のるに一巻の世あ世一浮世二浮世
世仲号名世半移移用只迷懐世二うさう世

梅あ
花
実
なれ
た
た
た
た

世ああ後の世 世只迷懐世二ああ世う後の世
のうらよの半 世のうらよ二あり又世のわなれや
世のうらよ二あり又世のわなれや
ありゆと世と世の世の世のわなれや
あつとま居あよたうくくさうわらり
代の世のあやわらりていあ後の世う礼迷懐たり
教よあわらうさうの迷懐
二川のわらわらう
い自然の半 梅の何うても移と移の川と世の梅
あつとま ありて又まよあの梅わら又冬木の梅
一ありま梅お世の自然の **梅** 只一浮世一材一名あ一浮
半ありりり二川のわらり **梅** 梅二材一材一名あ一浮
うらら一うらの浮ら **梅** 梅二材一材一名あ一浮
あつとまひて一あつとま **梅** 梅二材一材一名あ一浮
あつとまひて一あつとま **梅** 梅二材一材一名あ一浮

山階
梅
梅

多行と
有てお
たのい
たきに
たきに
たきに

ら海のうらりきしるあつじうの
白と居あま

居不 可福みりん 里こつあま 一しむ志をたあつちまの

雲乃事 あむちりせ あむちりせ 居よたけ

ろ 二句おちりきめぬゆとたふちあつねとつふ 年いふ不嫌えまの季りしこし二句ちりおゆらよ

し あしちりしりちり 松竹るよ水かよ

く あしりいそひさ物 二句 あし上人 あの上

半 あしりいそひさ物 二句 あし上人 あの上

じ福のくちり田畑

大田と半そひまに 二句ちり あむちり あむちり あむちり

十六日踏方のそのあ舎し半ちり男踏方女踏方 あむちり あむちり

とてありしちり源氏物語かしののけしと踏方 あむちり あむちり

のうらちれが系中の男女のこゑとたれとえ あむちり あむちり

ひらうらうらとあつちりしちり年のも あむちり あむちり

は あむちり あむちり あむちり あむちり

宗師指
合志を
の天を
二句を
ハカチ
二句を
ハカチ
二句を
ハカチ

二句 老荷

けりても今にたりたり打紙にうぬ
わたりたりたりとのあともたふらじり
しとつり せいの身とわかしんん
りふふよ百ふもさつりふもひひり一宗を

礎よ衣蒙く類

袖衣かしく二句たり

生類は執賢

依句神可 二句たり
為神紙 二句たり

ついでにけりてしつりたりとて
とらけりけりてしつりたりとて
宇土郡長濱にて海人これとつりて
そこのけりて武天の御時天平十五年正月十四日
太宰府よりこれとつりてしつりたりとつり年毎の

おそれるに依す人さうさうとめとれしと大角へ

あつるに必神紙たり神人けりてしつりたりとて精紙たり

二句たり激務たりしつりたりとて麻たり

生類は二句あり多しよある法水の水のまつりたりとて

八徳大井と中いん白と神代帝應神天白とたり

仲哀天皇神四皇子母の神功の辰之胎神香

公たり天天下とつりしつりたりとてしつりたりとて
のさるまるとめりてとてしつりたりとて
依て神とわたりとてしつりたりとて
あつるにけりてしつりたりとてしつりたりとて

養老四年九月天國神衣とつりて大菩薩神力

あわに
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

人くふと献とくすの序と名平急成思とくや
法宗え痛曾祿好忠かすつふ人たをたててゆくと
音よおろ郷音 せひひふたきねのきき川
わーのきねの海のきき海わすとのきき
つげん二句たり以上三句ありききなり
まふ林乃きき

まふ林乃きき

クの時ふよ年のききのききたくれ
とて二句たりききとあふふふふ

樵まよあれ字

あふふ
人倫之

使よ新

これの
くけも

あふふは二句たりは二句たりたもふの下木の
あふふは二句たりは二句たりたもふの下木の

新よ法

法よりと下周られ嬉之使下りたよ
うりて不可嬉之 新よ法よりと下

かりきと二句入目のきとあふふのたふらたふら
新いあ嬉しひくれのうくれも法よ二句入目うくれ

の新い

あふふよんりり

二句より

袖あふ

よ洞

あふふのききあふふのきき

洞よ袖のあ

月あふふの

たのくよ洞

あふふのきき

人乃

二句たり

別よ法

あふふのきき

二句んあふふの句の同

あふふは二句たり

あふふのきき

あふふのきき

あふふのきき

あふふのきき

あふふのきき

鳥羽の
夜に
きこと
きこと
きこと
きこと
きこと

物時うまの 志すはゆふの物 クハ時うまの 子紙
不埒し 互可埒之 たる

よんまひしもうへ 能くあつる半の ぬえうれせ ぬえうれせ
のやかりさうしひいせぬ半の

ク乃字 物まの 産 と紙をにを地 二句

窓よ戸 今ハ由之門窓戸 あしとまに

詞 これ打紙可埒 護字たれん はよてりふた くの業たり

くさるひふてふしとのんうううふあま かまのまに句あまのしとまうれとるに産 く

とに書 クまのりふまの 光陰 よらひら
ふ埒たり二句

月日 但月よても日ひても一わらん可埒之
和日ふ又是陰といひりのけをとの

和の半をてるとん陰 時 かよ好字か

字 言風とまこし八月よ 木枯よ木の字

外也三ふ娘 縁 着つれま 家風よあ

家風といふあこの字又の半居あま二句凡とふ

字あまあ白かり 久しあ月のううもたかり

あ凡ともあうせし 天神の母あ
あ方かりううと和字又及半の半かり
せぬとも 改紙とま
ねんうり 袖中物

木乃よ木字

凡トナシキ
萩トナリ
モ凡トナシ
娘トナリ
萩トナリ
凡トナシ
例トナリ
凡トナシ
ラ又シ

改述二字之袖中
抄み子の名

王よ空

わきに沖を
も二句

淡路よと

好まき山邊よはら

山邊トナリ
み句可娘
ひても

晨明よま乃字

の字あり
み句可娘

入

相入字遊字

其書

萩乃と

凡トナシ
くそは萩可娘

ひくまのふ萩可娘
おの萩竹のそくちと凡のひもしらた

一文書一丸
八二ヨリ九
ハニニヨリ
千守ハカ
ハニニヨリ
余ハカ
ナカヨリ

二句かりわーわしらのそくちも萩可娘
この凡よる徳之宗養わしらの凡とつたは萩のやけ
そのまはしとま萩と付くあつたりとせよ萩とり
そのまはしとま萩と付くあつたりとせよ萩とり
歎をよまよとくあつたりとせよ萩とり
お越可娘
かけまのりくかけまのりな
とれあいのりくせやなり
齡乃凡んそら甲午お年おん字
お年の七午八午より
八十代んかしのお年おん字
不娘と
せいのまはしとま萩の目算よ
みとまはしとま萩の目算よ
二句よらひはしとま萩の目算よ

イッパニ
百款
何れ
ハ

と字八十カしと可極十
の字むらりして二もわんを 魂よぶ乃字

あしわとらむのどけとら ぶしわとい
お乃字しりあ句極し

つああ句えれく二句あしわしりあ
分二句あしわあしりあ二句あしりあ

よ見 目よ くりまに月くく人よ見
あ極し ちり快二句

くくしにちり快 記念くく人目 勢とつあ詞
不可極し 是ん不極し

あつに可為二句 不可為夜分 物なりふよりけり字四字
二句襟字や物ふ

かしとあ句可極 けらに快二 其あしり

あしり 二句あしり二句 名詩よ

名の字詩の字 余詩とねしあ

よねしあ 二句あしり すすちりけよの字

二句あしり 二句あしり 世字 付句極之あ極ふ
若し由名定之

二句あしり 二句あしり 知よ物乃あしり 志

あしり 二句あしり 二句あしり わしりあしり

あしり 二句あしり 二句あしり 可極之あしり

色階にて
たはし
如字の心
るれい
ふてと
し

かすてわしくいひつ終 去のう
ひる

ハ二句 いひる終み句うく二いふといふもなり
可極之 いふたひくみ句うれとそれなり

なかりとわるとわす終とわればなり

とわす 如計詞 二字つづる
極打紙 二句なり なりわす

たり 付句極し打紙不極し
成字より不極し も一字なり

成乃字と成の字のみ句なり も一字なり

よ君 依句 依句
成乃字と成の字のみ句なり

ちとにわるとわす 玉音よ詞 依句終
不極之

人よとわす 奇よ云の

媿ふ 同 成乃字と成の字のみ句なり

從可極同 成乃字と成の字のみ句なり

生死よ君 二句いづるにわるとわすも二句なり

齡よ老 依句伴 大略極之依句を可極を
不極之

わたり 一連はは又三年よわるとも三年のよりい何
はといひえされい句よと

口や馬
十ノル
正年
味ノ
字ノ
三ノ
マフ

わろくろの門かりすのあせりてせすて人
又わりをよむかりすのあせりてせすて人
白人備かりのあせりてせすて人
ひんぐまは嫌物也

世 替る可 一屋あむの物のごころよくりしとせり
馬の世に伝ちたしとせりしとせり

法わりの 一文字 大切し律もよく替る可
余可然とく 余教の字の

可朽嫌物不用之 一文字のあむかりひしとせり
若別あむを理 月ひしとせりとのあむ二句教の字との

二三の字 二字 似名事 西嫌 公ねり
のあむと 同否 かりし

新に三文字のあむとせりもあむかりしとせり
わろくろのあむとせりもあむかりしとせり

ことお
ことお
おれ

わろくろのあむとせりもあむかりしとせり

あむかりしとせりもあむかりしとせり

老与白髪 可嫌月 月形

とせりもあむかりしとせりもあむかりしとせり

可替同朽不絶者字を吉わろく

可替同朽不絶者字を吉わろく

可替同朽不絶者字を吉わろく

